

厩で一服 廁でニ服(六)

新聞紙をめぐらない物不足の話

赤瀬川原平



チリガミ不足と民族問題

泰平小僧 お隣の日本国ではいいよいよインフレたけなわで、資本主義に活気がみなぎってきました。ネ? オジサン。

馬オジサン そうですよ。こうでなければ本当の資本主義とはいえません。いままでの日本なんて乞食はいないし、失業者はいないし、社会主義みたいなもんですよ。いや、民主主義みたいなもんですよ。一般には線香民主主義といういい方でいわれていましたね。

泰平小僧 うわァ、線香民主主義ですか。

いい感じですね、線香花火みたいで。もはや線香ではない、とかいうわけですね。いや、もはや線香がない、というのかな? あ、そうだ。線香の買い占めというのはまだ誰もやっていないみたいですヨ。

馬オジサン それはいいところに気がついた。線香というものは生活必需品だからね。何といても線香がないと葬式ができない。葬式ができないと人が死ねない。チリガミがないとウンコができないと同じ論理だ。

泰平小僧 うわァ、死ねないというのもつらいけど、ウンコができないというのもつらいでしょうね。

馬オジサン しかし日本はいま現にそういう状態にある。いざというとき気がつくときチリガミがないので、国民はみんなソレをガマンしているのだ。

泰平小僧 そうすると日本国民はみんなウンコを体の中に溜めたまんまなのですな。

馬オジサン 露骨だね、お前さんは。もつと間接的にしゃべりなさい。せめて単語だけでも「ウ○コ」とかいうふうに、自粛して。

泰平小僧 あ、すみません。そーだ。ボクは露骨だなァ。こういうことでは通貨不安をひき起こしておきながら、まだ反省の色がないと世間に思われてしまいますね。

馬オジサン そうですよ。もつと上っつらだけでも高度に学問的にしゃべらなさいと。

泰平小僧 はい。それでは今回の日本ブルジョア軍団物不足作戦……あ、こういういい



じゃないですか。しかし私からそれにもう少しつけくわえるとすればだネ、小僧はこの流通問題を栄養学的に論じながらもウ○コ問題だけをとり上げていくけど、オシ○コ問題がなおざりにされている。日本の人口の五〇パーセントといわれる人々はオシ○コをするときにもチリガミを使うのですよ。これらの人々がお茶なり、ビールなり、オヒヤなりを飲むのをもう少しガマンすれば、チリガミ消費量はもっと大幅に少くなるはずだ。

泰平小僧 はい。ボクもその点はいちおう検討してみただけど、これにはいろいろとサベツの問題がくっついてくるのでメンドクサくて……。最近はどうもさうだからね。オトコ社会とかオンナ社会とか穴と棒しか頭がないのが不平不満を言うことだけで満足しちゃって天皇陛下もお困りですよ。

馬オジサン ハイハイ、そうですね。とりあえずその件に関してはなおざりにしておきましょう。しかし、それにしても穴や棒のある人たちはウラヤマシイですね。

自由と平等の弁証法的風景

泰平小僧 ところでオジサン。ボクは今回はチリガミ問題を専門にレポートしてきたんだけど、チリガミ以外のものでも、たとえばハンケチ不足の問題とかいうようなものはないのですか。オロカな庶民がハンケチを買いあさって、スーパーや小売店からハンケチが一斉に姿を消して、通産省のハゲ頭がハンケチ需要の抑制を国民に訴えて、結局ハンケチ一枚店頭渡しで五百円という標準価格ができたんだけど、じつはこのハンケチ危機の陰には国際ハンケチ資本が暗躍していたとか何か……。

馬オジサン もちろんそれはあります。チリガミとか石油とか洗剤とかいいうのは氷山の一角。いまや日本はインフレたけなわで、いよいよ日本の資本主義には本格的に活気がみなぎってきたからオレもやるゾというので、暗躍の準備をしているいろんな資本には、まず国際チーインガム資本、国際焼き芋資

本、国際消しゴム資本、国際トマトジュース資本、国際靴ヒモ資本、国際今川焼き資本、国際画鋲資本、国際天ぶら資本、国際墨汁資本、国際大和糊資本、そのほかまだまだたくさんあるヨ。

泰平小僧 うわ、何でもカンでも国際資本が暗躍するんですね。その調子だと国際になりずし資本とか、国際鉄火巻資本とか、国際鮭のおにぎり資本とか、国際煮込み定食味噌汁つき資本とかも暗躍しそうですね。

馬オジサン そうですよ。自由社会、つまり資本主義社会における唯一の平等は、利潤に対してサベツをしないこと。つまり儲かることならどんなことでも分けへだてなく平等に立ち向かうというのがこの自由社会なのだから、もちろん油断はならない。いまだこそソノ気に構えているけど、たとえばひとたび国際靴ヒモ資本が暗躍したときのことでも考えてごらん。靴が一足三千円なのに靴ヒモ一本が五千円、両足で一万円、靴と全部で一万三千円もしてしまうのだ。日本人の履物が約百年の歳月を消費しながら下駄やゾーリやハダシから靴へとすじへと移行してきた裏には、この国際靴ヒモ資本の策動があった。この国

方も露骨ですネ。えーと、今日の日本の消費文化が必然的に招来させた物不足現象（これならいいですネ、体制的で……）の象徴的現象であるチリガミ問題について考察してみます。馬オジサン はいどぞ。

泰平小僧 これには民族学的な問題が深く根底に流れております。なぜ日本にだけチリガミ不足騒動が発生して欧米諸外国には発生しないのか？

馬オジサン はい、いいですよ。

泰平小僧 この点について各先生方は、この日本国の流通機構を経済学的見地からしか考察しないからダメなのであって、私はこの流通問題を栄養学的に考察する。

馬オジサン ハーハーン。

泰平小僧 だいたい日本人は外国人にくらべてウ○コになりやすく流通しやすいうところの炭水化物をたくさん喰いすぎるんです。外人は肉食なのでウ○コの量はほんのチョットなのでチリガミの量はほんのチョットだ。場合によってはチリガミがなくてもウ○コができる。だからチリガミ騒動などというものは起こりようがない。それにひきかえ日本人は大量のウ○コを出して大量のチリガミを必要とする。人口一人当りのチリガミ消費量は世

界最高の数字を示している。日本一国で世界のチリガミの約三〇パーセントを消費するともいわれています。これは地球規模で考えた場合、石油問題よりも深刻です。この点に早くから着目したのが国際チリガミ資本であって、太平洋戦争終結とともに直ちに日本に進出し、まず日本の便器産業を吸収してそれまで汲取式であった日本の便所の水洗化作戦に着手。そして戦後二十数年間の間にいつのまにか日本の便所の数十パーセントを水洗式にすることに成功。そうすれば国際チリガミ資本のケツ論としては水洗用チリガミ、すなわちトイレット・ペーパーを自由に売り惜しんでグングンと値段を上げていけばいいのであって、今回の日本におけるチリガミ不足は資本主義的手続きの金儲け主義の必然によって起こるべくして起こったのです。

馬オジサン はい。それではこの国際チリガミ資本のチリガミ不足攻勢に対決する日本民族の戦略について、どぞ。

泰平小僧 それはですね。まず日本国内におけるヘモリンド、毒掃丸、その他各種の便秘治療薬を発売禁止にすること。この発売禁止の措置が立法上無理ということであれば、国際便秘資本が何かから融資を受けてでもい

いからこれらの便秘薬を買い占め売り惜しんで市場から無くしてしまうことです。そうすると日本の人口の五〇パーセントといわれる人々の便秘がなおらなくなる。そうすると当然全国的にウ○コの量が減少し、チリガミ消費量も大幅に下降する。そこでさらに下痢止め薬の増産という追い打ちをかけると、チリガミ消費量はさらに激減する。そのあと朝日便太郎さんたち汲取式便所復活促進会議の幅広い地下活動によって、残ったわずかのチリガミ消費は完全にコマ切れ古新聞紙に切りかえることができる。そうすればもう日本にはチリガミなんてほとんど必要なくなる。だからこれによって日本民族は国際チリガミ資本の邪悪な攻勢を完全にシリぞけることができるとです。

馬オジサン はい、いいでしょう。うまい





際靴ヒモ資本がこの期に及んでこのまま黙っているわけがない。いまにきつと靴ヒモは品不足になって暴騰する。

泰平小僧 そうするといまのうちに靴ヒモをできるだけ買い溜めしておいた方がいいですね。一人一生分か二分分くらい……。

馬オジサン もちろんそれにこしたことはない。できればチューインガムや消しゴムや画紙なども。本来なら鮭のおにぎりや煮込み定食味噌汁つきなども買い占めておくべきなんだけど、庶民の力でなかなかそこまではね……。

泰平小僧 しかしそういつているうちに買い占められてしまったらどうするんですか。じっさいに国際煮込み定食味噌汁つき資本などが暗躍したときのことを考えてみると恐しいです。たとえば川崎のコンビナートに林立する銀色のタンクの中には、じつはヒソカに煮込みが満タンになっている。東京湾の沖合に停泊中のタンカーの腹の中にはじつはヒソカに味噌汁がタブタブにはいつている。国鉄の流通センターの倉庫には、じつはヒソカにライスがぎっしりつまっている。

馬オジサン しかしそうなれば庶民の方も負けじとばかりの自己防衛で、風呂桶の中に

ン。この買い占め売り惜しみという梱包芸術運動のおかげで、日本国はホントウの資本主義国家としてどこに出しても恥かしくない状態の国になってきたわけですね。

馬オジサン そうなのです。最近の日本国における買い占め売り惜しみ精神の昂揚にはめざましいものがあります。これこそ日本民族が待ちに待っていた資本主義の精神、つまり金儲け主義の精神、要するにかけがえのない自由社会の神髄だといえるでしょう。

泰平小僧 ホントウにそうです。じっさい、最近の諸物価の値上がりを見てみると胸のすくような感じですよ。物価が二倍、三倍とグングン力強く上がっていきつたに、ああ、ボクたちはまぎれもなく自由社会に生きているのだなアという実感がヒシヒシとつたわってきます。

あったかい味噌汁がタツプリ。タンクの中にはビニールを敷いて煮込みがギッシリ。押入れもまた上下にライスがビッチリつまっている。ごはんツブが襖にくっついちゃってどうしても襖が開かない。

泰平小僧 うわア。

馬オジサン マアそういうわけで、文化生活というものは、チリガミがないとウ○コができない式に、必ずどこかに買い占めの窓口があいている。その窓口から買い占めの手が伸びていくと、文化生活というものは七転八倒してしまふ。

泰平小僧 そうするとたとえば、オハシがないとゴハンが食べられないので国際オハシ資本がオハシを買い占めると日本人はみんな死んでしまふ、というようなわけですね。

馬オジサン そう、そう。ティッシュ・ペーパーがないとオ○○ができないのでティッシュ・ペーパーを全部買い占めると人類はみんな滅亡してしまふ。

泰平小僧 うわア、オジサンはすぐその問題だ。でもやっぱりワサビがないとオサシミが食べられないということもありますね。

馬オジサン そう。オヒヤがないとやっぱりカレーライスが食べられない。

馬オジサン そうです、そうです。それが一般的な日本人の国民感情というものです。インフレこそはその国がまぎれもなく資本主義社会であり自由主義社会であるということを保証するところのアトラクションですからね。

泰平小僧 しかし日本国の一般の国民でない人の中には、これをインフレではない、インフレではないといっている人もいますよ。馬オジサン ハッハッハッ、お前さんのいっているのは豊島区に住む一級建築士、田中角榮(五五)のことですよ。この人は勘違いしてるとすよ。つまりみんなが自分のことをインテリだ、インテリだといっているのかと思つてね、だから彼としては内心まんざらではないと思ひながらもそこはいちおうケンソソして、いやインテリではない、インテリではないと……。

泰平小僧 なアるほど、そうですか。それはそうですよ。アレがインテリだったら日本のインテリも幅が広がって豊かになるのに、非常に残念ですね。

馬オジサン そう。だいたい日本のインテリというものは一級建築士や一国の首相のことをすぐ「土建屋」といって差別する。これ

泰平小僧 ねぎがないと納豆が食べられない。

馬オジサン 味の素がないとオシッコが食べられない。

泰平小僧 ズボンがないとズボン吊りができない。

馬オジサン 鉄砲がないと革命ができない。

泰平小僧 引力がないと逆立ちができない。

馬オジサン 貧乏人がいないと人助けができない。

泰平小僧 金持ちがないと泥棒ができない。

馬オジサン ちょっとズレてきたなア。

泰平小僧 本筋がないとズレることができない。

馬オジサン 自由社会の芸術とアトラクション

馬オジサン はい、そのへんでいいでしょう。つまり買い占めというものは、一物品の隔離隠匿によって世界の構造を明らかにするという梱包芸術みたいなもの。これは立派な資本主義リアリズムですよ。いまや日本国では大商社も小庶民も国民全部が一致団結して梱包芸術の制作に邁進しているところです。

泰平小僧 なアるほど、そうするとオジサンはいけないことです。

泰平小僧 でもオジサン。ボクたちは赤瀬川原平資本主義共和国の国民だからこうやってテキトウに軽口をたたけるけど、日本国の国民はなかなかこうもいかないでしょうね。

馬オジサン そりゃそうだよ。資本主義に活気がみなぎってきたということは、即、庶民の生活が苦しくなってきたということだからね。オレたちみたいにフィクションだけで生きてるんじゃないやなくて連中にはじっさいに生活があるんだから、まア資本主義がイキイキとすればするほど唐げられていくわけよ。ワッハッハッハッ。

泰平小僧 オッホッホッホ。不謹慎ですけど、こんなことで笑うなんて。でも常識で考えたって庶民を唐げない資本主義なんて自由社会の恥ですよ。それなのに日本の庶民はまだまだ平和そうですよ。やっぱり日本の資本主義はまだ未熟なんですよ。

馬オジサン そうですよ。だいたい社会主義政党や共産主義政党というのは昔からあるのに資本主義政党というものはいまだに日本にはないでしょう。資本主義を公然と宣言する「資本党」というのがあらわれてもいい時代ですよ。

馬オジサン ほほう。もれてますね。もれているのは火をつけたい方がいわけですね。異臭がただよいますからね、異臭が。

日本の火事エネルギー埋蔵量

泰平小僧 しかしオジサン。さつき虚虚実実実話櫻画報の表紙でもいったことですが、日本国はエネルギー不足で悩んでいるというのに、灯台モト暗シというわけでしょうか、一番重要なことを忘れてはいますね。

馬オジサン はい。何でしたっけ。

泰平小僧 火事ですすよ。

馬オジサン あ、そーだ。火事だ。そーですよ。今回は最初から火事の話をするつもりで火事の絵もたくさん描いてもらったのに、どうも話がよけいなところにそれしまっして、やっとな話になりましてね。はい、どーぞ。つづけて下さい。

泰平小僧 つまり日本は燃料というすとぐ他国の石油をアテにするから、簡単にエネルギー危機とか何とかいってクヨクヨするんだけど、落着いてよく目を見開けば、国内には火事のエネルギーが充満している。日本は一平方メートルあたりの火事発生率では世界最高の数字を示しているのです。それなのにエ

不足の問題がほとんどささやかれていますね。

馬オジサン そーらしいですね。しかし私には実感としてわからないね。だいたい私らの国、つまり赤瀬川原平資本主義共和国（めんどくさいので以下赤資国と略す）（と思っただが赤資国とまちがえられそうなので略すのはやめる）というのが天然ガスの産出国だから、やたらブースカ、ブースカと貴重なガスを国外に惜し気もなく放出している。日本国内に向けて。

泰平小僧 そのようですね。赤瀬川原平資本主義共和国というのは机の前に長時間坐って仕事をする場合が多いし、輸入食糧も主として野菜類、それも米とか芋とかいうデンブン質のものが多くいえに胃腸が弱いから、いきおい天然ガスの発生率が高くなる。ガス産出国としての立地条件はそろっているわけですね。

エネルギー不足などいっているのは矛盾しています。そういうふうだからいままでは火事が発生すると、とにかく消すことしか考えつかない。もちろん火事というものは消さなければならぬのだからうけど、いったん焼えたした家屋というものは消えるまでにもものすごいエネルギーを発する。木造で一坪あたり約五万キロカロリというから、六畳と四畳半と台所、いわゆる2DKに風呂、トイレつきが一軒燃えたとして平均一二〇万キロカロリ。全焼の場合これに逃げ遅れた人体、大、中、小を合わせると、一五〇万キロカロリにも上がります。（しかし詳細は調査中）このエネルギーをたいたずらに空中に放置しておくてはない。政治がシツカリしていれば、この火力を有効に利用してタービンを回すことができる。そしてそのエネルギーを電力に変えることができる。すなわち日本国は現在のエネルギー危機を火事力発電によって乗り切るべきなのです。

馬オジサン ポン／＼（ヒザを打つ音）こーれは小僧にしてはじつにいいアイデアです。なるほど日本には世界でも最高に燃焼率の高い木造家屋が、ほとんど無尽蔵に建っている。それに火事というものは平均してみると時間

馬オジサン いまどき、明るい話だね。

泰平小僧 ところがそのガスの日本国内におけるガスもれ現場が発見されたい。こんな記事がありました。

燃やすのが安全

建設現場の天然ガス

ネオンが消えても地中から噴き出す天然ガスの火は消えず——昨年12月26日夜、江東区亀戸七丁目の都営住宅建設現場でガスが燃え出したが、その火が、まだいっこうに消える気配がない。

炎は三十センチの高さになり、強い風が吹くと火が消えることがある。しかし、消せばガスがたまって異臭がただよひ、爆発の恐れもあるため、いまのところ燃やしておくのが一番安全、と監視を続けている都住宅局の職員が消えるたびに点火している。

この火を有効に利用できないか、とガス会社調べてもらったが「炎は大きい、火力が弱い。せいぜいガスコンロ一台分」との診断。わざわざパイプを引いて使うのもかえって金がかかるわかって、初雪の降った21日も変らずにポツ、ポツと音をたてて燃えるままだった。（昭44・1・22、朝日新聞）

泰平小僧 そーです。すでに技術的には東京電力の火事力発電開発部が第一号火事力発電機の試作に成功しています。これは実験用の小型だけど、昨年九月、某自衛官によっておこなわれた日比谷公園内の焼身自殺未遂事件（虚虚実実話櫻画報五ページ参照）を利用して現場テストをし、四〇ワットの電球を四〇秒間点燈させることに成功。その後、この人体用のほかに木造家屋用の第二号機、ビル火災用の第三号機など、着々と試作に成功。あとは法務省、運輸省、通産省の三者間で法解釈の調整さえできればただちに民間業者に発注して量産し、実用化を待つばかりというのが現状のようです。

馬オジサン これはしかし文字通り明るいニュースではないですか。ね。これまで火事の家を燃やしてしまった人々は、ただ嘆き悲しむばかりだったけれど、同じ全焼するのでもそれが電力となって各家庭の電燈をともし、それによって日本のエネルギー危機を開き、ひいては公共の福祉に役立つのだと思えばアキラメもつくし、嘆く必要はないし、

自由社会を 資本主義思想 赤の手先から守る

CK 29830

日本資本党

泰平小僧 うわア、すごいですね。資本金がギッチリつまった党ですね。札束だらけのピカピカの党ですね。ボクも入党したいなア。

馬オジサン この資本党は買ひ占め売り惜しみをどんだん目ざしながら庶民をどんだん虐けてしまい、資本主義をどんだん発展させてしまおう。

泰平小僧 そうすると世の中の進歩がどんだん早くなるわけですね。世の中はいまよりもっとどんだん物不足になっていって、物価もどんだん上がっていく。ところで物不足もさることながら、いまの日本ではエネルギー

の（やめる）というのが天然ガスの産出国だから、やたらブースカ、ブースカと貴重なガスを国外に惜し気もなく放出している。日本国内に向けて。

泰平小僧 そのようですね。赤瀬川原平資本主義共和国というのは机の前に長時間坐って仕事をする場合が多いし、輸入食糧も主として野菜類、それも米とか芋とかいうデンブン質のものが多くいえに胃腸が弱いから、いきおい天然ガスの発生率が高くなる。ガス産出国としての立地条件はそろっているわけですね。

馬オジサン いまどき、明るい話だね。

泰平小僧 ところがそのガスの日本国内におけるガスもれ現場が発見されたい。こんな記事がありました。

燃やすのが安全

建設現場の天然ガス

ネオンが消えても地中から噴き出す天然ガスの火は消えず——昨年12月26日夜、江東区亀戸七丁目の都営住宅建設現場でガスが燃え出したが、その火が、まだいっこうに消える気配がない。

炎は三十センチの高さになり、強い風が吹くと火が消えることがある。しかし、消せばガスがたまって異臭がただよひ、爆発の恐れもあるため、いまのところ燃やしておくのが一番安全、と監視を続けている都住宅局の職員が消えるたびに点火している。

この火を有効に利用できないか、とガス会社調べてもらったが「炎は大きい、火力が弱い。せいぜいガスコンロ一台分」との診断。わざわざパイプを引いて使うのもかえって金がかかるわかって、初雪の降った21日も変らずにポツ、ポツと音をたてて燃えるままだった。（昭44・1・22、朝日新聞）

泰平小僧 そーです。すでに技術的には東京電力の火事力発電開発部が第一号火事力発電機の試作に成功しています。これは実験用の小型だけど、昨年九月、某自衛官によっておこなわれた日比谷公園内の焼身自殺未遂事件（虚虚実実話櫻画報五ページ参照）を利用して現場テストをし、四〇ワットの電球を四〇秒間点燈させることに成功。その後、この人体用のほかに木造家屋用の第二号機、ビル火災用の第三号機など、着々と試作に成功。あとは法務省、運輸省、通産省の三者間で法解釈の調整さえできればただちに民間業者に発注して量産し、実用化を待つばかりというのが現状のようです。

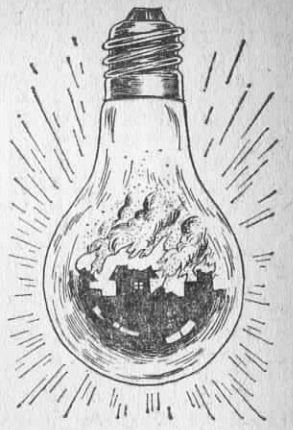
馬オジサン これはしかし文字通り明るいニュースではないですか。ね。これまで火事の家を燃やして

馬オジサン そうでしよう。放火や、放火の奨励はいけないことだけど、ただ何となく事故や過失を起こしてしまっ、何となくいつのまにか火事になってしまった、といった

馬オジサン これは京王線の電車の中にあつたものだけど、ヒドイものです。火災はムダなエネルギーだなんて、認識不足もはなはだしい。まったく時代遅れだ。いったい貴重な火事エネルギーを何だと思ってるんだ。泰平小僧 ですからこのような時代の勢いとして、これからは国民的な火災運動というものが必要になります。もちろん近代国家として放火を奨励するというわけにもいきませんが、しかし消防庁としては少くとも火の用心のポスターや標語などはいちおう回収し、防火運動などもストップするという方向に動かざるをえないでしょう。たとえば現在テレビなどでやっている「おやすみの前に火の元をもう一度お確かめ下さい」といったようなCMも早急に自粛することになりますね。何しろ火の用心をしすぎてぜんぜん火事にならないよ、とだとな国の御家庭の電燈がぜんぜんつかないという事態をひき起こさないともかきらないわけだから、そのへんが一番微妙な問題なのです。

馬オジサン そうでしよう。放火や、放火の奨励はいけないことだけど、ただ何となく事故や過失を起こしてしまっ、何となくいつのまにか火事になってしまった、といった公共の福祉に反するわけですね。たとえば一般市民が夕食のどんらんで輪島と北の湖の結びの一番をカラーテレビで見ながら、さア、輪島がつりに出た、というときに消防自動車がかんばりすぎてパチンと停電になってしまふ。そうなれば一般市民感情としてもやはり許せないという雰囲気になっていくのが人情ですよ。だから警視庁では火事現場における消防庁と東京電力との衝突の問題について、いまから頭を悩ませているようですよ。馬オジサン それは難しい問題ですね。しかし公共の福祉というものは表現の自由などというものよりもずっと重たいものだから、ここでは当然個人の自由などは多少なおざりにしてでも公共性を重んじるべきでしょうね。一個人のちょっとした幸福が一時的にそこなわれるように感じるようなことがあったとしても、広い視野に立って考えれば、それが日本の産業に役立ってまたGNPが上昇し、ひいてはそれがもう一度国民の幸せに還元されるわけだから、やはり一時のことにドツと動揺したりせずにもっと落着いて政府を信頼するべきでしょうね。

馬オジサン そう。国民みんながそういう気持ちで生きていけば、日本はアラブの石油とユダヤのメジャーを敵に回したってちゃんと火事力発電で国難を打



まさに一石二鳥というものじゃないですか。

火事力発電時代の公共性を守れ

泰平小僧 ただ問題は、火事現場における公共性の問題ですね。まず自分の家に火事が発生すれば、やはりできるだけ早く消したいのが人情というものだから、どうしてもすぐ一八九番へ電話してしまふ。そうするとどうしても消防自動車がかんばりすぎて、どうしても早く消火する事が任務なのだけど、火事力発電車にとつてはあまり早く消えてしまつては意味がないわけですね。わざわざ貴重な石油を使ってエネルギー現場までかけてきてても、ホンのわずかししか電力供給ができないのであれば、

泰平小僧 それともう一つの問題点は、火事の原因が事故や過失や自然発火の場合はい

いんですが、これが放火であった場合にその放火犯人をどう取り扱うか。この微妙な問題についても警察庁と法務省とでいまから頭を悩ませているということです。放火はもちろんいけないことだけど、その放火の結果は利益につながっているわけだから、その点が困るわけですね。しかし実際的にはこれからの放火犯にはすべて執行猶予がつけられるだろうというのが報道関係者の間ではもう常識になっているようですよ。

馬オジサン まアそれはそうでしょうね。

これもまた国益、あるいは公共性にはかえられないからね。これからは法律を犯したからといってただ一概に犯罪人扱いにするというわけにもいなくなる。こうなったら何と

みんなでふせこう 車輛火災
火災はムダなエネルギー

車輛火災予防運動 2.28-3.13

泰平小僧 あつ、このポスターは何ですか。このエネルギー不足の時代に火災をふせこうなんて。



開することができる。この日本の歴史始まって以来最大の物不足の時代にあつて、一庶民のささいな幸せと、かけがえのない国家の発展と、いったいどちらが大切なのかということですね。

泰平小僧 そうだと思います。放火はもちろんいけないことだけど、エネルギー不足の日本国民はもう一度火災の原点にたちかえり「マッチ一本火事のもト」という昔からある言葉の意味を、もう一度じっくりと考えなおしてみる必要があるのではないのでしょうか。



世界一物価が高い国から離れてカナダかスвейンの田舎でも、生活費の安い国へ移住を、などの声を身辺に聞く。物価高ぐらいで見棄てられる魅力のないニッポンなのだ。

ユートピアの想像が創造するほどの「国」をのぞむわけではないが、庶民が人間らしくメシのくえる国に住みたい。幸福をまもってくれるならどこでもよい。やりきれない国の民でありたくない。十数年の繁栄ニッポンで失業と空腹はなくなり、メシのくえるニッポンとなったが「人間らしさ」は奪われて人間破壊の生き方のレールの上を走らされた。ところがいまや、公害・高物価でメシの方もあや

しくなってきた。ニッポンKKにシラケた眼を向ける国民がふえてきている。

石油ショック以来の数カ月の間にみせた社会破壊をみるがよい。これは単なる異常事態でなく、ニッポンKKの姿を鮮明にしてみせた瞬間である。大企業という犯罪集団の犯行を政治が

それには「ニッポンとり囲み党」を結成しよう。

なにを対象にでもよい。いたるところでとりかこんでしまふのだ。さし当りメシのくえる日本をということで、モノをかくすとか値段を上げるとかニッポンをとりかこみたい。

小売店でもメーカーの本社ビ

ニッポン取り囲み党をつくろう

大門一樹

野放しどころか共犯となって国民を苦しめている。

こんなニッポンはやりきれない。その支配下から脱出するグループ、国内で別の世界をつくる人びともいるが、もう一つは汚れたニッポンをすっかり別物に洗濯しなおす——日本清掃のアイディアだ。

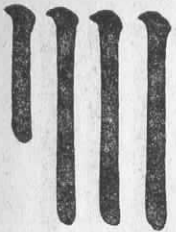
ルでもよい。とりかこんで「かくすな」「つり上げるな」と非難を発声することだ。ベ平連がデモで経団連をとり囲んでスローガンを投げるが、これでは「抽象的」である。経団連、いわば「財界」という抽象物に「ベ平連がやっている」ということに終る。大衆は「ベ平連にまかせ

ておけ」とエキサイティングなショウの観客で終ってしまう。ニッポンとり囲み党は何をするか。自分らを苦しめる者を取り囲んで怒りをぶつけた心理はニッポン中に拡がっている。こうした大衆との共感をよびおこしとり囲みの輪を拡げること、それがとり囲み党の目的だ。大衆意識は「そこまで」来ていながらつき破れない一枚の皮膜がのこる。とりかこんで叫んでみれば群衆はスッと入ってくる。それにはとり囲み党が群衆に心理的な距離感をもたせてはおしまいだ。ブラカードやデモの隊列を持ったなにか別の集団的存在、と距離を感じさせてはならない。

あちらこちらで少数のとり囲み党が活動すれば、それが他のとりかこみを触発する。人びとの気持はそこまで来ているのだ。こんな空想が一瞬にして現実化する可能性のある貴重な瞬間なのだ。

俺は沖縄をなんであのようにしちまったのかと、問いつめた。日本のえらい人達の考え、やっている事は沖縄に関して、けだもののような、人間の皮をかむった狼のような、いや、それよりも悪い、ずる賢い金貨と、凶々しいドブねずみの顔付をしているようである。大企業の悪事は、此の頃一連の売り惜しみ買い占め記事で毎日お目にかかっているが、他人の心の痛みには全く目もくれずただただゼニゲバの一念で、キョロキョロ長くのびた爪を磨いて臭いにおいのする口をあけて、日本列島を走りまわっているのである。

特に列島改造とか何とか、わが祖国で一番の権力の地位に坐り込んでいる政治家がテール



沖縄の海辺にて 内田良平

を叩いて言い始めてから、日本全体が不動産屋の発想に憑かれてしまつて、カサカサした、埃の荒地のようになつた心の中を風ばかりが吹き渡つたようだった。沖縄に関して俺は、それが一番ひどく現われたと思つている。ゼニゲバに与したヤカラは、沖縄の目に見えない大事な美しいものを泥の中に叩き込んでしまった。透명한青い汚れを知らない海辺を、石油タンクの油と、

地は、日本が独立しても、また、沖縄が返還されてもそのままであるどころか、自衛隊の基地にもう一度改めて平らに整備され、それを先兵にしたようにあとを追うけて来たゼニゲバ達が、土地を買い漁り、汚し、勝手気儘に振る舞つて、全土を私有化するような状態が、沖縄が狭いだけに、よけい俺の目にあるありと見えるのである。 沖縄は日本民族ではない。琉

切崩した海岸の赤土で埋めようとして。何のためのカイハツなのか。てめえ達のもうけの、そのために注ぎ込んだ札束で、沖縄の小さな島の人達が最低限に必要としている生活物資まで価格を暴騰させたばかりか、人の心まで巻き込んでメチャクチャにしてしまったのである。

球民族である。古くは大陸に支配され、そのあと日本に隷属させられた民族である。

何で沖縄をこんなにするのか。ばかでない東洋一の軍事基

俺は……沖縄に何が何でも独立して欲しかった。戦後ずっと異民族の支配下で沖縄の人達の味わう苦しい生活と、つらい闘いに抱いた日本人の素朴な同情が、返還という形をとって、どうやら何ものかに巧く利用されてしまったように思えてなら

ない。俺の見た目では沖縄は良くなつたどころか、復帰してもっと悪くなつてしまつたと言ひようがない。沖縄の人々が、あれ程願望していた軍事基地に奪われていた耕地面積が、復帰後増えずに逆に減つてしまつている事実を見ても分るのである。だが或る者は数字をあげて反論するかも知れない。これこれの額が、沖縄に投資され、雇用はこれこれの数字で増大し、これこれの企業が生産を開始し、島民の収入は平均にしてこれこれの額に増えた……と。

だがそれは飼っている豚にエサを与えて太らせてから食べちゃうのと同じやり方ではないか！ 俺にとって今は、どうしても祖国というもののイメージが、やさしい母親のようなものではない事は確かである。沖縄をこんなにしてしまった日本の国家というものの恐ろしい実体が、沖縄の海辺に立つ時に、俺の中に明らかに現われて来るのは、とどめようがない。